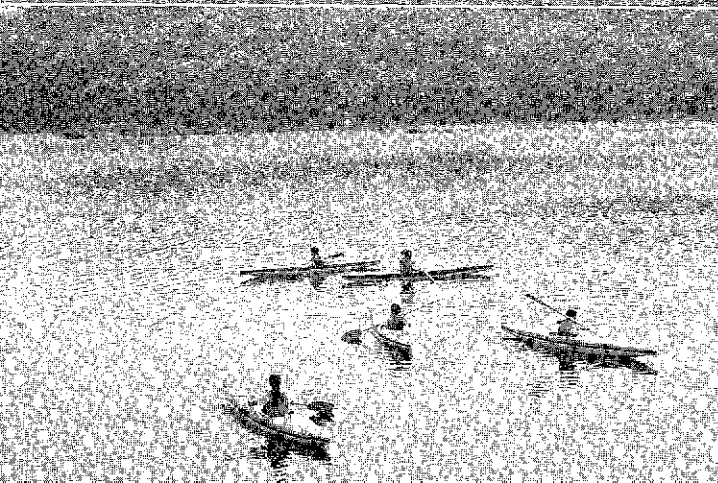


新潟県

公民館月報 10

平成 8 年 10 月号 通巻第 524 号



特集 『生涯学習社会における 学校の役割について』

- 祝 点 公民館の生涯学習を
- ひるば 城山から学ぶ
- 実践記録 そば祭り啓昌記 (砺波市公民館)
- サークル交流 「習熟入をつくる」自分をみつめて (新井市)
- 感動を大切に (越路町)
- 素顔拝見 渡部道宏 (新井市) 嶋岡仁志 (加治町村)

表紙 大池憩いの森 (頸城村公民館)

きびしい情勢下の

当面の問題に論議集中

平成7年度決算を承認

九月二十四日、県公連第二回評議員会が新潟市中央公民館を会場に開催された。

決算の承認のほか、公民館を取り巻く当面の問題について意見交換がなされた。

出席者三十名(欠席五名)で会議は成立。午後一時三十分定刻に開催。

会長今井昭友氏は、上半期の主な事業報告ならびに協力への感謝の言葉とともに、当面の問題について慎重に審議してほしい旨挨拶された。

つづいて、議長に井部和夫氏

(白根市中央公民館長)を選出し議事に入る。

◆報告及び審議事項

一、第47回回県公民館大会が盛会だったこと、合わせて公民館誕生五十年目を迎える意義ある大会にできたこと。また、中越地区公連の主事部会による特色ある大会の運営ができたことについての報告があった。

二、新規事業としての、初任職員研修が実施できたこと。会場(国立妙高山少年自然の家)の快適さの中で落ち着いた研修ができたことの報告がありそれぞれ了解された。

三、平成七年度歳入歳出決算の承認について。

歳入 一三、二七五、五八五

歳出 一一、三八五、一九二

差引残 八九〇、三九三

監査報告のとおり承認された。

◆当面の問題

最近、国、地方自治体で行政改革の嵐が吹き荒れている。その中で、公民館のリストラ問題が浮上していることについて、

県内の実情を交換しあった。そして、個々の公民館で対処できない問題について、県公連で対

処するよう要望が出された。これを受けて、今後具体的な行動がとられることになる。

初任者研修大好評

国立妙高山少年自然の家を会場に

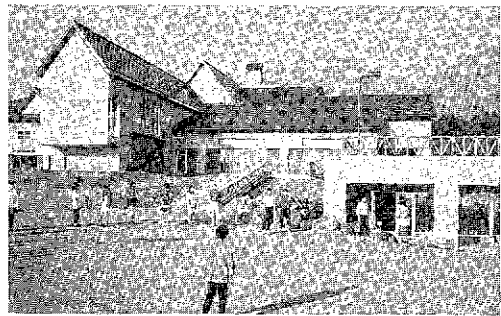
今年度、当県公連が新規に開設した「生涯学習推進のための公民館初任職員研修会」が去る9月17日から19日までの3泊3日におわり、国立妙高山少年自然の家を会場に実施した。

初秋の妙高山を背に、快適な施設を舞台にしたの、アットホームな研修が行なわれ受講者にとっては満足いく研修だったと好評を博した。

受講者24名(男性16名女性8名)で、年齢構成は、50歳以上2、40代7、30代5、20代11と幅が広がったが、経験年数では、今年四月就任したものが16名と圧倒的多数であった。

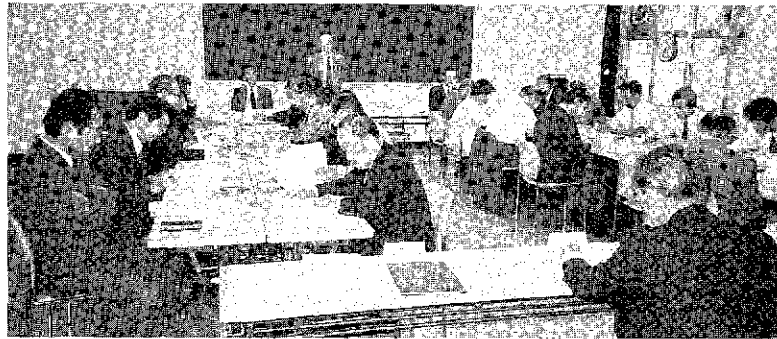
ちなみに、受講後の感想文によると、「学習プログラムの企画立案の手順」の講義・演習を筆頭に、「公民館とは何か」「会議の進め方」「レクリエーション実技」等々の内容も充実しており、明日からの活動に役立つものばかりで、自信を持って帰れると記していた。

反面では、演習の時間が不足したこと、アウトドアーライフの時代を反映した野外活動に関する内容がなかったのが残念だったとも記していた。また「先輩に学ぶ」が好評で、来年度以降もぜひ取り入れるべきという意見もあった。



妙高山を背景に朝の集い

総じて「出会い」の感懐とともに、同じ釜の飯を食べる機会を得た仲間としての連帯の絆を結べたことが研修の最高の収穫だったところも語っていた。



会長あいさつ

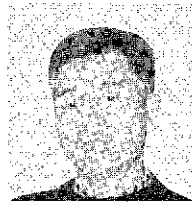


問題提起する風間委員(十日町市公民館長)

関プロ社教委研究大会印象記

越後路の月岡温泉

今井昭友



九月中旬
新潟市と豊
浦町を会場
に關東甲信
越後社会教
育委員研究大会が開催された。

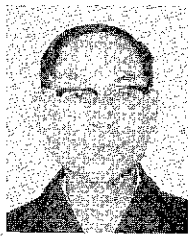
本県での開催は十年ぶりの由。
参加者は予想を超えて千六百
人となり大会関係者は大奮、ホ
テルも三カ所となった。
分科会は六つ。私は第二分科
会「家庭教育」に参加。二三〇

人、十六分科会とテーマが絞ら
れ、大概の参加者は余裕がもて

た。一分科会を例にしての感想
は短絡であるが、他山の石とし
たい。
一方主催者は、会場の分散を
詫びておられたが、私はむしろ
新潟方式を歓迎する。
絶好の秋日和り、黄金の穂が
垂れる田園と、飯豊連峰を借
景にした月岡温泉は、他県の人
にきつと心地よい越後路の印象
を与えたに違いない。
また、記念講演の遠藤美氏の
「歌づくり人生」は聴衆を泣か
せた。関係者のご労苦はいかば
かりか。感謝しつつ。再会。
(木会 会長)

視 点

またも新
聞に民間企
業による通
信教育のチ
ラシが入っ
てくる。一
頁大でその
数が百余
種。東京新宿の某デ
パートで数年前のこ
と、四百余の講座をつ



公民館の生涯学習を

篠田朝隆

たであらう。
ところで公行政にお
ける生涯学習はどう
なっているか。立地に
即したプランをもち鋭
意の取り組みは評価で

は……。公民館は一定
地域に云々と社会教育
法にも明示され、地域
を学習の拠点としてい
るはず。中央施設を主
にし地域が阻害されて

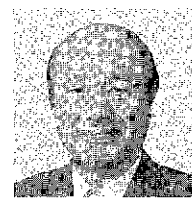
公民館の生涯学習を

篠田朝隆

盛りたくさんの公私
による生涯学習推進体
制下で、公民館には、
公民館が負荷しなけれ
ばならない、一般とち
がう生涯学習があるん
だと、先ず当事者への
喚起を促して止まない。
(前小千谷市公民館長)

城山から学ぶ

豊島洋一



六年前、
定年退職を
してからラ
イフワーク
として続け
ているもの

に、城山(麒麟山)の朝登
りがある。脚力をつけよう、
でっ腹をへこませようの体力
づくり目的で城山会に入会
して登り始めたのだが、今
では恰好の情報入手の場と
もなっている。

ひ ろ ば

城山会員は現在二十二
名、平均年齢七十一歳、そ
れぞれの職業、前歴はバラ
バラ、趣味また多様多様で
ある。朝五時半ともなると、
二人、三人と登り口の雨情
碑のそばの四阿に待ち合わ
せてから山頂めざして歩き
出す。町内でのホットニュース
や新聞テレビの話題などを、息
をはずませ、声高にしゃべりな
がら、一七三段の坂道を登る。
石段に落ちてくるオニグルミヤ
アブラチャンの実、道端のシャ
ガの葉から小さな赤い花をのぞ
かせているミズヒキ、白い野菊
にも似たタマバシロヨメナの
花、どれもこれも秋の気配を感

報交換が始まる。町づくりのこ
と、高齢者の体力づくりのこと
などお互いうん善を傾ける。こ
こでの雑談の内容が大いに参考
になる。
かくして、私にとって城山と
の出逢は、いろいろな人との出
逢いにつながり、明日への励み
となっているわけである。
(津川町公民館運営審議会委員)

審議会答申を読む 学校の役割について 連携の視点から

平成8年6月4日づけで、新潟県生涯学習審議会から、県知事ならびに県教育委員会に対して「生涯学習社会における学校の役割について」の答申がなされた。これは、去る平成6年9月26日づけで、同審議会に対して諮問していたもので、ほぼ二年間にわたり検討を続けてきたものである。

生涯学習社会の進展に対しては、公民館もまた大きな役割を担っており、学校との協力連携の必要が叫ばれている今日、この答申を無視できない状況にあるので、公民館の立場から、この答申をどう理解すべきかという観点から読むことにする。

第1章(表1参照)では、生涯学習社会についての理念が示されているものと受けとめる。ここでは二つの注目した点があった。

第1は、冒頭の部分で、「生涯学習社会」の有り様について「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その学習の成果が適切に評価される」社会を形成することであるとしている。これまでの社会教育において(一部社会通信教育などでは、資格付与のある学習もあるが)多くの場合、学習の成果を社会的に

評価することには、あまり意を用いないできたように思う。だから、そのための制度や組織について考えてこなかったが、この答申では、そのことについて取り上げている。ということは、これからの公民館の学習活動においても、社会的評価の方法を検討する時期がやってくるのであろうか。それはともかくとして、「学習の成果を適切に評価される社会」とはどのような社会なのか、について関心を持つ必要がある。この点については、後段の第3章において具体的に触れているので、ここでも

う一度答申文を見ることがする。

第2に注目したのは、これまでの「学校」のイメージを変えたことである。つまり、児童生徒の公教育の場として、いわば聖域であったものから、地域社会における最も身近な生涯学習活動の場としての性格を持つ必要が示され、今後は、地域における人々の生涯学習活動を支援するという観点から地域住民の利用を考慮した学校施設づくりや教育機能・施設の開放を推進し、単に学校教育活動の場としてだけでなく、学校を地域社会に開かれた生涯学習活動の拠点として整備していく必要がある。

この主張は決して耳新しいものではなく、社会教育関係者の間では随分早くから指摘してきたところなので、「ようやく取り上げるようになったか」の感がなくもないし、まだ答申の段階なので、知事や県教育委員会がどう対応するのかという問題もひかえているが、注目すべき点であるのは間違いあるまい。

(表1)

第1章 生涯学習社会と学校

21世紀に向かい、豊かで活力ある社会を築いていくためには、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その学習の成果が適切に評価される」ような「生涯学習社会」を築いていくことが必要である。

生涯学習社会において人々が生涯にわたって学習を続けていくためには、なによりも人生の初期において生涯学習を続けるという基本的な態度を形成することが不可欠である。そのためには、学校教育、とりわけ初等・中等教育の段階において、知的好奇心を大切に、学ぶ喜びを感じさせることなどにより、自ら学ぶ意欲や態度を育成していくことが大切であり、学校の教育内容自体も生涯学習社会を生きる基礎を培い、かためるという観点から捉え直していくことが重要である。また、学校は、発達年齢に層に伴う一定の年齢層の児童生徒に対する公教育の場として極めて重要な役割を果たしていることは言うまでもないが、同時に地域社会において最も身近な生涯学習活動の場としての性格も有しており、生涯学習の気運の高まりの中でその重要性は年々増してきている。

そのため、今後は、地域における人々の生涯学習活動を支援するという観点から地域住民の利用を考慮した学校施設づくりや教育機能・施設の開放を推進し、単に学校教育活動の場としてだけでなく、学校を地域社会に開かれた生涯学習活動の拠点として整備していく必要がある。

(大学等高等教育機関については割愛)

第2章では「初等中等教育機関の担うべき役割」として纏々述べている中から、公民館の立場での関心事として小中学校の「余裕教室の活用」についてを見ることにする。

余裕教室の活用

小学校・中学校において児童生徒数の減少に伴い学級数が減少し、余裕教室の増加が見られるようになってきている。

平成6年度には小学校581教室、中学校138教室の余裕教室が生じるに至っている。このような余裕教室を地域社会における住民の身近な学習活動の場として積極的に活用するために、社会教育施設やスポーツ・文化施設に転用していくことは、生涯学習振興の観点から大きな意義を持つものである。このため文部省では、平成5年4月に「余裕教室活用指針」を策定し、活用方法として、

- ① 児童生徒の学習スペース、児童生徒の生活・交流のスペース及び授業準備のスペース
 - ② 管理スペース及び学校開放を支援するスペースの設置、また撤去によるグラウンド等の拡張
 - ③ 地域住民の学習活動のためのスペースとして社会教育施設への転用、などを定めている。
- 活用事例として、広島県

特集 県生涯学習

『生涯学習社会における
公民館と学校との』

三原市立三原小学校の三原市老人大学専用校舎(社会教育施設)への転用がある(中略)
また、新潟県長岡市立表町小学校では、地区公民館への転用がある。1棟1階の音楽室を音楽・集會室に、2階の図書室を事務室に、会議室2室を調理室、及び和室に改修し、広く公民館活動を推進し地区住民の生涯学習活動の拠点として、また地区住民と学校との間に一層の連帯感を醸成する拠点としての取組がなされている。

続いて、第3章の「今後の検討課題」における、県の取組むべき課題としての「余裕教室の活用」について触れよう。

余裕教室の活用

児童生徒の減少に伴い生じてきた余裕教室を社会教育施設に転用し、地域住民のための生涯学習のスペースとして活用することは地域の生涯学習の推進にとって有意義なことである。また、学校にとっても地域住民との交流が深まり、地域の教育力を生かした教育活動が行なえるなどの利点も多い。

転用するに際しての問題点の検討や改修の具体的方法、施設、設備の整備及び転用後の活用事例集を作成するなど市町村に対して支援して行くことが求められる。

なお、近年増加している廃校を地域における生涯学習拠点として有効に活用することなども望まれる。

この「余裕教室の活用」については、すでに多くの県内市町村でも取り組んでいることであり決して耳新しいことではないが、生涯学習審議会が答申した

というところでその推進に一層拍車がかかることであろう。また、県がこの答申を受けて、県の役割をどのように果たすこととなるのかについても関心が向けられるところである。

× × × × × × × × × ×

私的なことで恐縮であるが、去る日、筆者の関わる新潟市内の地区公民館の運営審議会において、一号委員である小学校長と中学校長がごもごも学校と公民館との協力による公民館事業への提言がなされていたの思ひ出す。小学校からは学校備品のパソコンを利用しての夜間開放講座開設の勧めを、中学校からは中学校の生徒を主役にした多世代間交流事業の開設などについて、意欲的な提言をしていたが、これなどは「余裕教室の活用」をこえた公民館と学校との連携に関する動きとして捉えることができよう。

この答申における、公民館と学校との関わりは、余裕教室を公民館施設の一部として活用することによって止まってはいるが(諮問事項の内容上、それ以上には踏み込めないもので、これはこれでいいのだが)我々公民館関係者が真に考えなければならぬのは、公民館と学校との連携の重要性であり、具体的な連携策の樹立である。どのように連

(表2)

4 学校外の学習成果の単位認定

学習の成果が適切に評価されることは学習者の学習意欲を高めるとともに、学習者が学習の到達度を認識する手掛りとなる。また、学習歴を社会的に説明する際の基礎となる。このため、生涯学習を推進する上からも、学習の成果を客観的に評価されることが重要である。

現在、各種の資格認定制度が国あるいは財団法人等により実施されている。例えば、財団法人日本英語教育協会が実施する実用英語検定の制度は文部省認定となっており、他県における高等学校においては、2級に合格した場合高等学校における正規の単位認定が行なわれている。本県においても、学校外の学習成果を適正に評価する方法を取り入れていくことを検討していく必要がある。

においても、「生涯学習における指導者としての教員の役割」としてふれている。その概要は、「教員は、学校教育の指導者であると同時に、生涯学習推進の観点からは地域における生涯学習の指導者でもある。地域の学習グループや公民館等で行なう学習講座指導者として活躍し、生涯学習推進の一翼を担うよう積極的な参画を働きかける必要がある。

携し協力しながら生涯学習の推進をはかることができるかという点であろう。

公民館職員が学校教育に対する理解を一層深めることが必要になる。生涯学習の観点から学校を視野に入れた公民館事業を検討するなど、公民館職員の意識改革が求められているのである。また、学校教員にとって意識の改革が必要となっている。多様な専門的知識を持つ教員は児童生徒の教育だけでなく地域住民のニーズに応える指導が求められている。

このことに関連して、本答申

× × × × × × × × × ×

なお、答申の冒頭部分において学習成果の社会的評価についてふれたが、第3章に「学校外の学習成果の認定」という提言があるので見てほしい(表2)公民館においても検討する必要がある(上村)

実践記録 シリズ(12)

半蔵金分館 そば祭り

繁昌記 栃尾市 公民館

栃尾市の最南端に位置する半蔵金集落は、市制施行で栃尾市に編入された村である。昭和二十年代には、人口千五百人、戸数三百を数えて、村の中には子どもであふれていたと古老が言うが、現在では人口三百人弱、戸数は百を割ってしまった超高齢化と超過疎のむらである。

今から十年ほど前、当時公民館に席を置いていた私のところへ、村の将来を案じた半蔵金分館長(区長も兼務)の石丸金次郎氏が相談に来たのがこの始まりである。相談の結果、村に古くから伝わる手打ちそばの製法を活かして「そば祭り」を開催することで村の活性化を図ろうということになった。

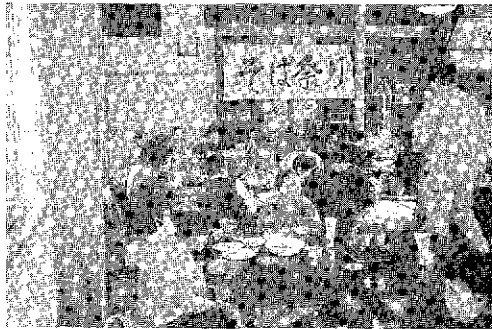
分館長石丸氏の説得にもかかわらず、保守的で引込み思案の村人たちからは、簡単には賛成してもらえず、最初のそば祭りが開催されるまでに二年もの歳月が必要であった。

ようやく、最初のそば祭りが開催されるまでになったが、その

時点では、村の婦人たちが協力してくれた程度だった。それでも、その年の十一月の第一日曜日に開催することになった。何しろ初めての計画であり成功するかしないか皆目見当がつかなかったもので、とりあえず七十人分のそばと料理を用意した。ところが、近郷近在からクチコミで知った人たちが、予想の二倍を越える多数の人が集まり、用意したものではありません。止むを得ず、翌月の第一日曜日に再度そば祭りを開くことで、せっかくなので当日おいて頂いて食べることの出来なかつた参加者にお詫びをしてお引き取りを願う始末であった。

これが、現在でも「半蔵金そば祭り」が毎年十一月と十二月の第一日曜日の二回にわたって開催されているゆえんとなつてくる。とにかく、今ではついで口に出来ない地場産のそば粉を天然の山羊と卵黄のみでつないだ懐かしい「昔そば」は思惑ど

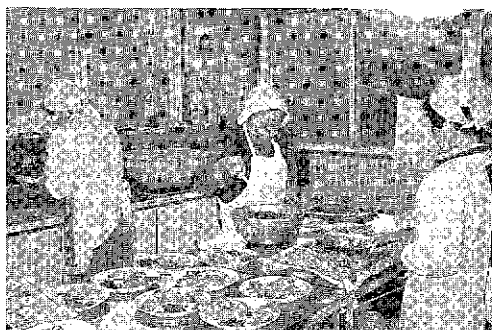
おり大好評を博した。最初のそば祭りを開くまでの村人の引込み思案だった姿勢とはうって変わって、村に「半蔵金そばの会」が結成され現在に至っている。そば祭りは回を重ねるごとにネズミ算式に参加者の数を増し、最近では二回のそば祭りで千二百人もを集めるようになった。これは、新



潟県の規模でありイベントとして村で捌ける限界の人数でもある。

この半蔵金そば祭りの特色は他の市町村で見られる多くのイベントが自治体主催なのに対して、全く一つの集落がすべてを自分たちの力で運営していることである。この点が半蔵金の人たちの自信であり自慢にもなっ

ている。そば祭りの客は圧倒的に市外の方が多く、中には東京をはじめとする首都圏からの常連客も多い。



見回って刈り取りの手配をする。分館長で区長の石丸金次郎氏は過去の参加者への案内状の宛名書きに精を出す。また、そばに添える郷土料理のズイキやノッペイや油炒めにする山菜の漬物の塩出しやら、皿などいろいろの容器の準備等々目が回るほど忙しい。それでも、遠路はるばるやって来て、「やっばり

毎年そば祭りが近づくと、村人たちは白発的に祭りの準備に取りかかる。ある人は深山に分け入って終日山芋を掘り続ける。ある人はそばの出来具合を

「本物志向」の今の時代は、昔ながらの製法による本物のそばを提供すればヒットするのは当たり前という当然の論理なのである。だから、村おこしは奇をてらわずとも当たり前のことをすれば「当たる」のである。

晩秋の半蔵金は、野も山も空も川も、どこもかしこもめっきり寒くなるが、村人と村外客の心が結びついたそば祭りの会場だけは別世界のように暖かい。「おばさん、おいしかったよ、来年もまた寄せてくださいね」「待っているけん、きつと来るんだいネ!」

そんな声がもうすぐ聞ける季節がやってきた。裏山の雑木林の木陰に身を隠して里の様子をジッと見つめている団栗と山猫たちのささやく声が聞こえてきそうなの、そんなのどかな半蔵金のそば祭りは来月三日(日)の午前十時から半蔵金防雪センターで開催される。

(栃尾市公民館係長 深滝純一記)

サークル交流

「書は人をつくる」

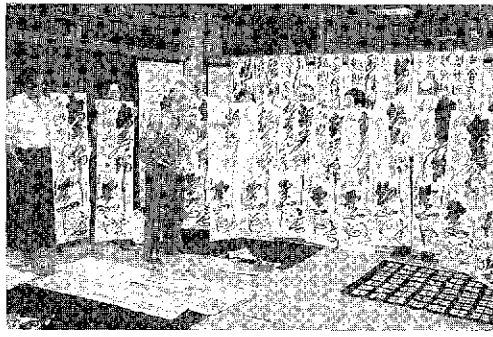
自分をつくめて

蒲 城 会

「書は人をつくる」と言われ
ています。

「半紙から離れて、糸幅も書
いてみたい」という思いから、
ユニークな発想を持ち、人間味
豊かに指導してくださる古山和
風先生にお願いして勉強を始め
ました。

勉強日には、公民館の和室・
二部屋で夫々の場所にいそいそ
と用意して先生を待ちます。
漢詩を書く人、かなを勉強す



る人、楷書の人、隷書の人と各
自の課題に従って、和気あいあ
いの中に学習が進みます。

何枚か出来ると、みんなの前
で指導を受けます。文字の大小・
墨の濃淡・筆の使い方など書の
見方も兼ねた適切なお話です。

自分の知らなかった「くせ」
もわかり充実感も得られます。

また、三月の公民館まつりや
十月の高齢者展にも参加して、
市民の皆様からもいろいろと批
評や刺激を戴くよい機会を与え
てもらっています。

友を得てますます発展する会
になることを願っています。

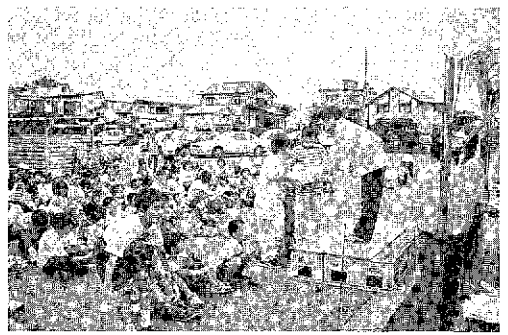
(新発田市 奥村 良三 記)

感動を大切に

U Y M 越路青年会

一つの事を成し得た達成感。
あなたは、どれだけ味わったこ
とがありますか。一生懸命頑
張った者のみが味わえる充実
感。

我々U Y M越路青年会は、参
加者と主催者が分かち合える感
動を大切にしたいと活動してい
ます。夏恒例となった青年会の
主催事業「越路フェスティバル」
の開催が近づくと、毎晩のよう



に二十名を越える若者が福祉セ
ンターに集まります。議論を繰
り返し、個々の構想という点を
出し合って見えてきた点と点を
結んでいくと企画という面がで
きてくる。今年は七月七日に米
迎寺地内を一周する七夕ウォー
クラリーを開催しました。

その感動を一過性のものでは終
わらせるのではなく、次の世代
につなげて行かなければ感動の
価値が生まれてこない。つまり、
メンバーが青年会を母体とし
て、放射線のように飛び散り、
新たな発信の拠点となるなら
ば、越路青年会がうまれた本当
の意義がでてくるのではないで
しょうか。

(U Y M越路青年会
平澤 守 記)

新井市公民館・主宰

渡部道宏 氏

橋がかかっていたら、たとえ
不安定な吊り橋であっても恐れ
なく渡ってしまうタイプ。とき
には小さな失敗もするが、持ち
前の明るさとバイタリティーで
乗り切り、いつも力強く存在感
をアピールしている。

彼は今春、福祉部門から異動
して来た新人である。それまで
の七年間、
老人、障害
者、援護の
業務を担当
してきた。



弱い立場の人たちへの行政
サービスに努めてきた彼は、「住
民の立場を考える」ことを第一
に心掛け、現在、青少年関係の業
務を中心に情熱を注いでいる。

ちなみに私も彼とは前の職場
で二年間、机を並べていた。プ
ライベートな付き合いも深く、
夜の街を舞台に、さまざまなエ
ピソードを持っている。

しかし、今は二児の父、仕事
をしていても飲んでいても、子
どもの入浴当番の日は、必ずそ
の時間までに帰宅する。

(新井市公民館
主査 白倉 徳一 記)

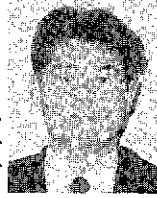
素顔拝見

加治川村生涯学習課

文化財専門員 嶋田仁志 氏

ある時はなぞの縄文人(半年
程前に夕げのひととき某ローカ
ルTVに2度出演、御覧になっ
た方もあるのでは?)、ある時は
スモウレスラー(今年の県青年
大会では重量級3位)、そしてま
たアルトキは小学校講師に考古
学者と、伴内もたんなる程の
大活躍。

そんな彼は三年前までは、生
粋の三重県人。京都ムニヤム
ニヤ大に学び、好きな考古学が
因果で、「このような新潟のなん
もない片田舎」に身を投じるハ



と何と隠そ
うその正体
は文化財専
門員というエライ肩書きを胸に
「宮沢賢治の心」で日夜職務に
励む好青年なのである。

「嶋田の姓だけは変えるな」
との親の言いつけは守りながら
も、身も心も、言葉さえもすつ
かり加治川人に染められている
「嶋ちゃん」なのである。

(加治川村中央公民館
中野 廣衛 記)

生涯学習推進のための公民館プログラム開発研修開催要項 ～公民館ボランティア育成事業の考え方とプログラミング～

- 趣旨
いま「生涯学習まぶくり」への対応が、公民館の課題となっています。その課題達成のためには、住民の持つ多様な知識・技術を生かし、公民館ボランティアとして「共に生きる社会づくり」への参加が求められています。よって、公民館ボランティアの育成をはかるため、育成事業の考え方並びにプログラミングの実際を会得し、もって課題解決に資するものです。
- 主催 新潟県公民館連合会
- 後援 新潟県教育委員会
- 日時 平成8年11月21日(木)22日(金)
- 会場 新潟県立青少年研修センター
- 参加者 公民館長、職員等公民館事業の企画立案に従事する者40名
- 経費 2,180円 内訳 食費 2,000円(4食)
雑費 180円(クリーニング代)
- 日程

9:00	11:00	12:00	1:00	2:30	3:00	5:00	7:00	8:30
1日 11月 21日	受付	開講式 オリエン	セッション	講義① 「ボランティア育 成の考え方とプ ログラムの技法」	質疑 質疑	事例研究 [近郊事例 発表と研究 協議]	休 息	夕 食
2日 11月 22日	事例研究 の指導	講義② 「市町村にお けるボランティア 育成事業」	研究協議	研修の まとめ	閉講式			情報 交換

講義① ボランティア育成の考え方とプログラミングの技法
事例研究の指導
講師 神奈川県藤沢市公民館 前館長 桜井照子氏
講義② 市町村におけるボランティア育成事業
講師 新潟県立生涯学習推進センター指導課長 菅木邦夫氏
事例発表 県内公民館の事例発表

9. 受講申込み
- (1) 申込期限 平成8年10月21日(月)
- (2) 申込先 〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
新潟県公民館連合会事務局
Fax 025 224-6073
- (3) 申込受付 先着40名までとし、受講決定者にはおって詳細案内します。
- (4) 参加経費 参加当日受付で納入する。
- (5) 申込み様式 下記様式によってお申込みください。

(様式) 公民館プログラム開発研修受講申込

氏名	年齢	性別	男	女
所 属	職名	公民館	動続年	
公民館名				



新規

公民館プログラム開発研修

申込み締切り迫る

左表は当県公連の今年度新規に開設した研修事業の開催要項です。「共に生きる」ことが重要な生活課題となっていて、今日の地域社会形成に向けて、各種のボランティア活動が今花ざかりの感

そのことから、その道の研究と実践を積み重ねられている専門講師

を呈しています。しかしながら、本県の公民館界では公民館を取り巻く施設ボランティアについては、その考え方、取り組み、支援の方法などについていくつかの問題を抱えております。

をお迎えしての研修会です。参加するみなさんには十分満足し

特別展 白神山地―世界遺産の森

新潟県立自然科学館で

白神山地のブナ林の美しさとそこで暮らす動植物の素晴らし

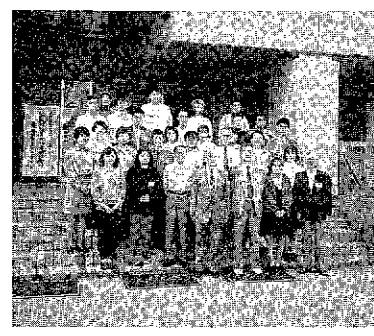
い多様性を紹介するもの。

また、森の中の遊びをとおり、自然に親しんでもらいます。

開催期間 平成8年11月3日

てもらえる研修会となりましょう。奮ってご参加ください。

あとがき



初任者研修参加者全員集合

12月1日まで

開催場所 新潟県立自然科学館
通常の入館料で観覧できます。

◆平成8年度も半ばが過ぎました。各公民館では来年度に向けての事業計画や予算要求などで多忙の季節を迎えました。近年は自治体行政のスリム化のあおりをうけて厳しい立場に追いやられていくのが多くの公民館の実態のようです。

◆公民館は(主催)事業で勝負をするのが本筋なの言うまでもありません。

今こそ、事業を見なおし、住民にとって真に必要な課題は何かを的確にとらえ、それを事業化するにはどうすればいいかについて検討する秋です。

◆県公連では、そうした活動の一助にと、研修事業を実施しています。積極的にご参加の上、参考にしてください。

(上村記)

表紙解説
大池憩いの森

県立自然公園に指定された湖畔には、キャンプ場やピクニックセンターなどが整備されている。

週末には、カヌー・ボートで楽しむのにぎわっている。

(頸城村公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951
[新潟市川端町2-9・県林業会館内]
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部150円 年共・年極1,800円】